

不方和書
不方和書

不方和書
家因和書
書云和書
少和書

是道後之病者不取者病之
若可之正離者其存者有之
本年功無功一其句論之
收筆改筆口定於其少者

Vertical text on the right page, likely bleed-through from the reverse side.

外に古少廟不事乘積りて是れ教を
三海函箱に於て少考法入函彼本の中
代本に於て何れ台階札志心中達して通
るる報事

一 弟人左病言起居の箱敷福之とありて
之の六月方之月控うたるとありて
月迄之の病体は之廟に在りて是れ

之を古少廟に於て是れ何れは海に在り
之に於て海函箱に於て少考法入函彼本
中代本に於て何れ台階札志心中達して通

但之に於て是れ何れは海に在りて
之を古少廟に於て是れ何れは海に在り
之を古少廟に於て是れ何れは海に在り

一 昔日報に於て是れ六月四日何れ何れ

此のうゝは空の扁のこころをくたす年々をくたす海
 函種物をもつて少許語入の役は在りて代
 木こうは 任るんじり

一 少許語入の役はありて無役を在りては任
 るはは考も是れ近少許語在初は用をくたす
 病を全收りて再初うは 任るんじり
 右に定行豫に或是れ近少許を成在りて

以来右の通に極少招うは或は任るんじり
 中一

外丸舟にありて

下兵之庫沃

下荒木藩之記
 山村 忠之助
 少業 兼之助
 海老 忠之助
 松田 普輔
 清 啓作
 石坂 七右衛門
 成瀬 清之助
 寺村 清之助
 木川 重之助
 福川 重之助
 宗田 重之助
 宇津木 重之助